

# コロナ禍における法文学部留学生の 被災記録の収集と保存

— 2021年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計・クロス集計結果 —

福井 秀樹<sup>\*1</sup>・池 貞姫<sup>\*1</sup>・青木 理奈<sup>\*1</sup>  
石坂 晋哉<sup>\*1</sup>・太田 響子<sup>\*1</sup>・小佐井良太<sup>\*2</sup>  
鈴木 静<sup>\*1</sup>・十河 宏行<sup>\*1</sup>・中川 未来<sup>\*1</sup>

\*1 愛媛大学法文学部人文社会学科

\*2 福岡大学法学部

◎キーワード：コロナ禍，留学生，アンケート

## 1. はじめに

新型コロナウイルスの感染蔓延の長期化は、大学生にどのような影響をもたらしているのだろうか。このような関心のもと、青木、鈴木を代表とする本プロジェクト・チームは、アンケート調査、手記募集、座談会による意見聴取等を通じて、コロナ禍における愛媛大学法文学部生の学修状況や生活状況への影響を把握する努力を重ねてきた（青木他，2021a，2021b，2021c，2022a，2022b，2022c；鈴木他，2022）。

これまで積み重ねられてきた調査のなかで、現状の把握が相対的に困難であったのが留学生である。留学生の中には日本語が必ずしも堪能でない者もいる。そのため、日本語のみを通じて行われてきたこれまでの調査では、必ずしも多くの留学生から回答が得られたわけではない。事実、留学生の回答は、2020年10月～11月に実施した1回目のアンケート調査では全26名中5名、2021年10月～11月に実施した2回目のアンケート調査では全23名中2名にとどまった。

そこで本プロジェクト・チームはアンケート・フォームを中国語、韓国語、英語でも作成し、2021年12月から2022年1月にかけて留学生のみを対象にあらためてアンケート調査を実施した。本稿は、留学生アンケートの回答を分析する作業を通じて、法文学部留学生2021年度の学修や生活にコロナ禍が与えた影響の把握を試みる。

## 2. 愛媛大学法文学部の学生数と遠隔授業

### 2.1. 学生数

2021年11月現在の愛媛大学法文学部の学部生数、大学院生数は、それぞれ1,618名と38名である（内訳詳細は青木他（2022a）を参照）。このうち、留学生は23名（学部生12名、大学院生11名<sup>1)</sup>）である。

### 2.2. 授業実施状況

本稿のアンケート調査対象期間である2021年度前学期の対面授業数と遠隔授業数は表1の通りである（青木他（2022a）より再掲）。

表1 2021年度前学期授業数の内訳

2021年度 (昼間主)	合計	対面授業	遠隔授業 A ①(同期型)
1Q	136	94	42
2Q	145	106	39
前期	280	107	173
(夜間主)			
1Q	44	28	16
2Q	44	25	19
前期	65	32	33

（愛媛大学教育支援課法文学部チームより提供）

## 3. 対象と方法

本アンケート調査の対象は、法文学部所属の学部生12名、大学院人文社会科学研究所法文学専攻所属の大学院生4名<sup>2)</sup>、合計16名とした。実施期間は2021年12月19日から2022年1月31日である。

調査方法はインターネットでの無記名自記式アンケートである。留学生に対するアンケート調査への協力依頼は、留学生の指導教員を通じて行った。その結果、全16名中12名（学部生8名、大学院生4名）から有効回答を得られた。また、1名（学部生）からはさらに手記の提出を得た。

1) 大学院人文社会科学研究所法文学専攻と産業システム創成専攻の2専攻により構成される。

2) 大学院人文社会科学研究所産業システム創成専攻の大学院生は除く。

アンケート内容は、(1) 回答者の属性について5項目、(2) 遠隔授業における学修面が8項目、(3) 大学や大学以外からのサポート面が3項目、(4) 生活面が7項目、合計23項目から構成されている。アンケートの回答は、必須の選択方式の項目と、必須ではない自由記述項目を作成した。具体的なアンケート内容（日本語のみ）は付録1に示す通りである。学生の手記は付録3に翻訳を掲載している。

## 4. 倫理的配慮

本調査において、対象者に対する倫理的配慮を以下のようにした。

- (1) 不必要な負荷や負担への配慮：回答は任意でありかつ匿名である。対象者に不必要な負荷や負担は生じない。
- (2) 個人のプライバシー保護への配慮：匿名で回答する。アンケート結果についても守秘義務を厳守し、個人のプライバシーを厳重に保護する。
- (3) 協力拒否への不利益への配慮：回答は任意であり、協力拒否への不利益は生じない。
- (4) 調査協力への理解や同意：学生生活指導教員からの説明およびアンケート冒頭に調査協力への理解を求める。

その他、アンケート作成において、個人情報が含まれないようにした。参加者には調査の趣旨が十分伝わるように冒頭に説明を書いた上で、参加は任意であることを説明し、アンケートに回答し送信された時点で同意とした。

なお、本調査計画は、愛媛大学法文学部研究倫理委員会の審査を受け、承認されている（受付番号18：2021年12月6日承認）。

## 5. 結果

### 5.1. 回答者の属性

表2に示すとおり、回答者12名の国籍は、中国が5、韓国が2、インド、セネガル、ベトナムがそれぞれ1、その他（無回答）が2である。性別は、表3が示すように、女性が7名、男性が5名である。学年は、表4から分かるように、学部1年生1名、学部2年生・3年生がそれぞれ2名、学部4年生以上が3名、大学院1年生が1名、大学院2年生以上が3名である。所属コースは表5に見るとおり、コース未定が1名、グローバル・スタディーズ履修コースが1名、人文学コースが3名、法学・政策学コースが2名、大学院が4名である。

表2 国籍

国 籍	回答数
中国	5
韓国	2
インド	1
セネガル	1
ベトナム	1
その他（無回答）	2
<b>総 計</b>	<b>12</b>

表3 性別（国籍内訳）

性 別	回答数
<b>女性</b>	<b>7</b>
中国	3
韓国	1
インド	1
セネガル	1
ベトナム	1
<b>男性</b>	<b>5</b>
中国	2
韓国	1
その他（無回答）	2
<b>総 計</b>	<b>12</b>

表4 学年（国籍内訳）

学 年	回答数
<b>学部1回生</b>	<b>1</b>
中国	1
<b>学部2回生</b>	<b>2</b>
中国	1
韓国	1
<b>学部3回生</b>	<b>2</b>
中国	1
韓国	1
<b>学部4回生以上</b>	<b>3</b>
中国	2
ベトナム	1
<b>大学院1回生</b>	<b>1</b>
セネガル	1
<b>大学院2回生以上</b>	<b>3</b>
インド	1
その他	2
<b>総 計</b>	<b>12</b>

表5 所属コース（国籍内訳）

所 属 コ ー ス	回答数
<b>昼間主：1回生のため、コース未定</b>	<b>1</b>
中国	1
<b>昼間主：グローバル・スタディーズコース</b>	<b>2</b>
中国	1
ベトナム	1
<b>昼間主：人文学コース</b>	<b>3</b>
中国	2
韓国	1
<b>昼間主：法学・政策学コース</b>	<b>2</b>
中国	1
韓国	1
<b>大学院</b>	<b>4</b>
インド	1
セネガル	1
その他	2
<b>総 計</b>	<b>12</b>

2021年度前期の居住形態（表6）は、一人暮らしが7名、学生寮が2名、その他が3名（いずれも日本に入国できず本国での居住）である。

表6 居住形態（国籍内訳）

居 住 形 態	回答数
<b>1人暮らし</b>	7
中国	3
韓国	1
インド	1
ベトナム	1
その他	1
<b>学生寮</b>	2
中国	1
セネガル	1
<b>その他</b>	3
中国	1
中国の寮に住んでいます。	
韓国	1
韓国の実家で。	
その他	1
家族と住んでいます。	
<b>総 計</b>	<b>12</b>

## 5.2. コロナ禍の学修面について

2021年度前学期（1Q / 2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業の実施形態（同期型・非同期型）に関する単純集計結果を以下の表7～表9に示す。同期型・非同期型の授業数については、当然のことではあるが、留学生の場合であっても全体的な傾向は日本人学生の場合と大きな違いはない（青木他，2022a）。すなわち、修学支援システム・メール等を利用した非同期型の授業数が減少し、Zoom等を利用した同期型授業数が増えている。

同時に、非同期型授業もかなりの数実施されていたことが回答から分かる。非同期型授業の場合、Moodleを利用する形態がより多い。これは、共通教育の授業の多くがこの形態で実施される方針となったことによるところが大きいと推測される（2021年度は、非同期型授業を行う際、できる限り Moodle を利用することが大学側から推

奨されていた)。もっとも、それにもかかわらず、2021年度においても修学支援システムやメールを利用した非同期型授業が少なからず実施されていたことも集計結果からは分かる。これは、渡日できていなかった留学生への対応が影響しているのかもしれない。

表7 Zoom等を用いた同期型授業数

Zoom等を用いた同期型授業	回答数
1科目	1
2～5科目	8
6科目以上	1
なし	2
総 計	12

表8 Moodleを用いた非同期型授業数

Moodleを用いた非同期型授業	回答数
1科目	5
2～5科目	4
6科目以上	2
なし	1
総 計	12

表9 修学支援システムやメールを利用した非同期型授業数

修学支援システムやメールを利用した非同期型授業	回答数
1科目	5
2～5科目	1
6科目以上	1
なし	5
総 計	12

表7～9の結合版

科目数	Zoom等を用いた同期型授業	Moodleを用いた非同期型授業	修学支援システムやメールを利用した非同期型授業
1科目	1	5	5
2～5科目	8	4	1
6科目以上	1	2	1
なし	2	1	5
総 計	12	12	12

### 5.2.1. 前学期の成績に対する学生の主観的評価

昨年度と比べることができないとする4名の学生以外を見ると、「昨年度と比べて成績が下がった」とする学生は2名にとどまり、「成績は変わらない」とする学生が5名、「良かった」とする学生が1名であった。

表10 昨年度と比較した前学期の成績（学生の主観）

前 学 期 の 成 績	回答数
1回生なので昨年度（2020年度）と比べられない	3
昨年度（2020年度）と比べて履修した科目が少なく比較できない	1
昨年度（2020年度）と比べて成績は下がった	2
昨年度（2020年度）と比べて成績は変わらない	5
昨年度（2020年度）と比べて成績は良かった	1
総 計	12

### 5. 2. 2. 遠隔授業の利点

遠隔授業の利点としては、「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」をあげた学生が10名と最も多かった。次いで、「通学時間がなかったこと」「自分の好きな時間に受講できたこと」をあげた学生が8名と多い。この他にも、良好な受講環境（「1人で勉強の方が落ち着くこと」）や質問のしやすさ（「教員に質問できたこと」）をあげた学生も少なくない。

表11 遠隔授業の利点（複数回答可）

遠 隔 授 業 の 利 点	回答数
動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと	10
自分の好きな時間に受講できたこと	8
通学時間がなかったこと	8
緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと	7
1人で勉強の方が落ち着くこと	5
教員に質問できたこと	3
総 計	41

### 5. 2. 3. 遠隔授業の困難さ

遠隔授業について「困ったことはなかった」とする回答が5件ある一方で、それよりもはるかに多くの回答が遠隔授業を受ける際に直面した困難を指摘している。「通信環境の悪さ」（5件）もさることながら、「授業方法・教材提供方法」や「授業・課題の内容」それ自体がわかりにくい、という指摘が多く寄せられていることが分かる。「課題等の提出回数が多いこと」「課題等の提出日が重なること」も学生にとっては負担であった様子がうかがえる。これに対して、メール連絡が頻繁で困る、という

回答は1と少なかった。

表12 遠隔授業の困難さ（複数回答可）

遠 隔 授 業 の 困 難 さ	回答数
困ったことはなかった	5
通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと	5
課題やレポートの書き方が分からなかったこと	4
教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと	3
授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと	3
課題やレポート提出の回数が多いこと	2
複数の科目の課題やレポート提出日が重なること	2
教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと	1
出席している授業で、課題やレポートが提出されているか確認ができなかったこと	1
大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと	1
総 計	27

#### 5. 2. 4. 遠隔授業を受ける際の障害

遠隔授業を受ける際の障害としては、「なかった」とする者が3名いるものの、その倍の6名が「言葉の障壁」（この回答項目は留学生対象アンケートのみに含まれている）をあげている。次いでそれぞれ4名があげている、良好でない「通信環境」や「Moodle、パソコンなどの操作方法」への戸惑いが遠隔授業受講の障害となったようである。また、「一人になれる部屋」や十分な性能の「PC 等」の確保が困難だった学生もいたことが分かる（それぞれ3名）。

表13 遠隔授業を受ける際の障害（複数回答可）

遠 隔 授 業 を 受 け る 際 の 障 害	回答数
障害になることはなかった	3
言葉の障壁があった	6
Moodle などの操作方法がわからなかった	4
自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）	4
自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった	3
自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった	2



自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった	1
その他	1
入学してから初めてパソコンを買いました。だから、最初の時パソコンの操作がよく分からなかったです。	
<b>総 計</b>	<b>24</b>

### 5.2.5. 遠隔授業を受けていた時の気持ち

遠隔授業を受けていた時の気持ちについては、8名が「通常と変わらず安定的」であったと回答している。しかし、長時間学修による「疲労」や困りごとの相談を教員・友人等にできないことから来る「不安」を感じていた学生も少なからずいたことが、回答結果からは分かる。

表14 遠隔授業を受けていた時の気持ち（複数回答可）

遠隔授業を受けていた時の気持ち	回答数
通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた	8
昨年度以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった	4
困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった	4
困ったことを教員に相談できず、不安になった	3
<b>総 計</b>	<b>19</b>

### 5.3. コロナ禍でのサポート面について

コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面についての回答を次に示す。

#### 5.3.1. 遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）

大学からのサポートについては、十分とする回答が2件あるものの、支援奨学金や面談・相談の機会の増加を希望する声も同じく寄せられている。

表15 遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）

遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート	回答数
特にないです。特に不十分だと思ったことはなかった。	2
支援奨学金	2
学部やゼミの先輩との面談、気軽に質問できる教員のネット上オフィスアワー	1

遠隔授業をしながら教員との直接的な対面相談等が不可能だったため学期中学習に対する不安感等を調査するアンケート等を通じて調査結果が良くない学生に対して選択的な学習相談が周期的に行われてほしいです。	1
<b>総 計</b>	<b>6</b>

### 5.3.2. 大学独自の緊急支援の必要性

「これまで大学独自の緊急支援を受けたことがありますか」という設問に対しては、「受けていない、あるいは、必要なかった」とする回答が7件と最多であった。また「支援を受け、満足している」という回答も1件ある。もっとも、「支援を受けたかったが、知らなかった」という者も2名いた。また、「受けたが不満だった」「応募したが不採択だった」という回答も1件ずつあった。

表16 大学独自の緊急支援の必要性

大学独自の緊急支援の必要性	回答数
支援は受けていない、あるいは、必要なかった	7
支援を受けたかったが、知らなかった	2
支援を受け、満足している	1
支援を受けたが、不満だった	1
支援を受けたくて応募したが、不採択だった	1
<b>総 計</b>	<b>12</b>

### 5.3.3. 松山市等からの支援の必要性

松山市等からの支援の必要性についても、大学からの支援の必要性に関する設問への回答と同様に、「受けていない、あるいは、必要なかった」とする回答が8件と最も多かった。また「支援を受け、満足している」という回答も2件ある。他方で、「支援を受けたが不満だった」「支援を受けたかったが、知らなかった」という回答も1件ずつある。

表17 松山市等からの支援の必要性

松山市等からの支援の必要性	回答数
支援は受けていない、あるいは、必要なかった	8
支援を受け、満足している	2
支援を受けたが、不満だった	1

支援を受けたかったが、知らなかった	1
<b>総 計</b>	<b>12</b>

## 5. 4. コロナ禍の生活面について

### 5. 4. 1. コロナ禍の経済的影響

経済的影響については、影響はあまりなかったとする回答（「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」「保護者からの仕送りに変化はなかった」）が5件あるが、負の影響を受けたとする回答（「アルバイトに入る回数や時間が減った」「アルバイト先が休業したり雇止めにあった」「保護者からの仕送り額が減った」「パートタイムの仕事を失った」）も7件、寄せられている。正負いずれの影響なのか判然としない回答（「アルバイトに入る回数や時間が増えた」「これ以上アルバイトを増やすことはできない」）もあるが、全体としては、回答者の半数近くが負の経済的影響を受けたものと推測される。

表18 コロナ禍の経済的影響（複数回答可）

コ ロ ナ 禍 の 経 済 的 影 響	回答数
アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった	2
アルバイトに入る回数や時間が減った	3
アルバイト先が休業したり雇止めにあった	2
アルバイトに入る回数や時間が増えた	1
保護者からの仕送りに変化はなかった	3
保護者からの仕送り額が減った	1
その他	3
これ以上アルバイトを増やすことはできない	1
パートタイムの仕事を失った	1
私は研究者なので、この質問には関係ありません	1
<b>総 計</b>	<b>15</b>

### 5. 4. 2. 就職活動への影響

就職活動については、「希望していた企業や自治体が募集を停止した」「就職活動をやめた」という深刻な負の影響を受けたとする回答が3件寄せられている。また、募集停止に伴う影響と推測されるが、「志望業界を見直した（変更した）」とする回答も2件ある。他方で、地方大学の学生にとっては正の影響となり得る面接等のオンライン

ン化を経験したとの回答（「Web 面接など、オンライン化された」）も4件ある。

表19 就職活動への影響（複数回答可）

就 職 活 動 へ の 影 響	回答数
Web 面接など、オンライン化された	4
希望していた企業や自治体が募集を停止した	2
志望業界を見直した（変更した）	2
就職活動をやめた	1
その他	2
まだ検討中	1
大学院に入りたいです	1
総 計	11

#### 5. 4. 3. メンタルヘルスへの影響

メンタルヘルスへの影響は、全体としてネガティブなものが多かったようである。事実、「通常と変わらず、安定的に過ごした」とする回答はわずか3件であった。その他の学生は、生活のリズムが崩れたり、抑うつ傾向にあったりしたことが分かる。

表20 メンタルヘルスへの影響（複数回答可）

メンタルヘルスへの影響	回答数
通常と変わらず、安定的に過ごした	3
生活のリズムが崩れた	7
気分が落ち込んだ	6
友達に会えなかったり課外活動が行えなかったりで寂しかった	6
疲れた感じがした、または気力がなかった	5
物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった	5
食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた	5
寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた	5
家族に会えず寂しかった	4
新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった	3
総 計	49

#### 5. 4. 4. 医療機関の受診について

上記のようなメンタルヘルスへの影響があったものの、医療機関またはカウンセリ

ングの受診をしたとする回答は1名にとどまっている。もっとも、受診には至っていない11名のうち5名は「迷ったが受診しなかった」と回答している。回答者の半数程度は、受診を考えるほどに精神的に不安定で疲れた状態にあったことが推測される。

表21 医療機関やカウンセリングの受診

医療機関やカウンセリングの受診	回答数
受診したことがない	6
迷ったが受診しなかった	5
受診したことがある	1
総 計	12

#### 5.4.5. 遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述）

遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化についても、メンタルヘルスへの影響に関する回答と同様、3名は大きな影響はなかったと回答している。他方で、不安、モチベーションの低下、コミュニケーションの困難、経済事情の悪化を指摘する回答も同じ程度、寄せられている。

表22 遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について

遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化	回答数
特になかった。変化なし。	2
生活においては、あまり影響はないです。しかし、他の学生との交流がないのはわざわざ日本の大学に留学する意義がないです。	1
昨年とあまり変わらないが慣れるようになりました。ですが、就活するのにコロナのことも考え、学校にいつて支援を受けることや友達にあって相談することは積極的に取り組んでなかった。	1
最初からちょっと焦ったし、日本語も聞き取りにくいし、ペースも乱れました。	1
私は当時（2021年4月）、様々な理由で勉強に対するモチベーションを失っていました。オンライン授業に興味がない、真剣に取り組んでいない、家族に会えない、友達との交流が少ない、集中力がないなど、様々な理由で勉強のモチベーションが下がってしまいました。	1
数日前に日本に着いたばかりで、大学に行き、人に会うだけでなく、大学についてもっと知る機会がなかったため、とても大変でした。	1

同期型授業を受けることによってバイトが難しくなりました。同時に経済的な事情も悪くなりました。また、学習に対する不安感が生じました。	1
総 計	8

#### 5.4.6. 遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述）

遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化についても、「特に変化がなかった」とする回答が3件、「徐々に慣れて乗り切ることができた」とする回答が1件ある一方で、「学業に興味を失った」「集中できなかった」「外出が減った」とする回答がそれぞれ3件寄せられている。これらの回答からは、遠隔授業が行われている環境にある程度スムーズ適応できた学生と、そうでない学生との差が大きかったことが推測される。

表23 遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について

遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化	回答数
だんだん学業に興味を失い始めた。続く状況に疲れる感じがしました。	1
休学前に1年を通ったので、学期が始まったとは感じられないので授業や課題に集中することが難しかった。	1
元々出かけるはあんまりしない、遠隔授業が始まって以来もっと出かけなくなった	1
だんだん慣れて、無事に半学期を乗り切りました。	1
変化なし、最後の方はオンライン授業に慣れた。	1
変化がないです。	1
なし	1
総 計	7

#### 5.4.7. 夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述）

夏休み時期の生活への影響、変化に関しては、特にないとする回答が5件、散歩による外出を増やし気分転換を図ったとする回答が1件、そして、帰省し家族に再会したことがプラスに作用したとする回答が1件であった。

表24 夏休み時期の生活への影響、変化について

記 述	回答数
なし	2
いつもの通りです。	1
変化はないです。普通に旅行とか、勉強とかします。	1
家とアルバイト先にいる時間が多く、学校がある時とあまり変わらない	1
家に閉じこもって過ごすことはもうだめだと思い、毎日散歩をした。感染が怖かったので、人が少ない朝5時に出かけた。	1
実家に帰る機会があり、家族に会えたこともプラスに作用しました。	1
総 計	7

## 6. 考 察

以上のような単純集計結果が示す法文学部留学生の学修面の主観的評価、大学等からのサポート、生活面の変化等はどのような関連性を示しているだろうか。本節ではクロス集計による分析を行う。

本稿の標本は合計12と少ない。成績に関する回答については、「昨年度の成績と比較ができない」とする4名を除くと標本数は合計8とさらに少なくなる。このように標本数が小さい場合、クロス集計表の行要素と列要素の2つの属性が独立であるか否か、すなわち、2属性の間に統計的に有意な関連があるかどうかを検定する方法としては、Fisher の正確確率検定 (Fisher's exact test) (Fisher, 1922) が有名である。もっとも、この検定は行列の周辺度数を固定する条件付きの検定である。これに対して、Boschloo の正確確率検定は行列の周辺度数を固定せず全カウントのみ固定する条件なしの検定である。近年の研究によれば、Boschloo の正確確率検定 (Boschloo's exact test) (Boschloo, 1970) は Fisher の正確確率検定よりも検定力が高い (Lydersen et al., 2009)。そこで本稿では、Boschloo の正確確率検定を行った。

### 6. 1. コロナ禍の学修面について

まず成績の主観的評価については、全体の約17% (昨年度と成績比較可能な留学生の中で25%) にあたる2名の留学生が昨年度と比べて成績が下がった、と回答している。この割合自体は、日本人学生の回答割合と類似している (青木他, 2022)。

ここで興味をひかれるのは、どのような留学生が成績低下を感じているのか、という点である。そこで、表10の5選択肢のうち「昨年度の成績と比較ができない」とする2選択肢を除く3選択肢を「成績維持・改善」「成績悪化」の二項に整理し直した上

で、遠隔授業の困難さ等に対する回答も二項に整理し直して、クロス集計と Boschloo の正確確率検定を行った。アンケート回答の二項分類の詳細は、付録2に示す。

表25 成績の主観的評価と性別等との関連

	(1)		(2)		(3)	
パネル A 成績	性別		居住形態		同期型 (Zoom 等) 授業数	
	男性	女性	一人暮らし以外	一人暮らし	1以上	0
維持・改善	3	3	2	4	5	1
悪化	0	2	1	1	2	0
p 値	0.3188		1		1	
パネル B 成績	非同期型 (Moodle 等) 授業数		非同期型 (Email 等) 授業数		遠隔授業で困ったこと	
	1以上	0	1以上	0	なし	あり
維持・改善	5	1	4	2	0	6
悪化	2	0	0	2	0	2
p 値	1		0.177		—	
パネル C 成績	遠隔授業受講に技術的障害		安定的な気持ちで遠隔授業受講		大学からのサポート期待	
	なし	あり	できなかった	できた	あり	なし
維持・改善	2	4	2	4	1	5
悪化	0	2	2	0	2	0
p 値	1		0.177		0.02826	
パネル D 成績	大学からの緊急支援		市等の支援		経済的影響	
	必要・受けた	不要・受けていない	必要・受けた	不要・受けていない	あり	なし
維持・改善	1	5	2	4	2	4
悪化	2	0	0	2	2	0
p 値	0.02826		1		0.177	
パネル E 成績	メンタルヘルス		医療機関等の受診			
	不安定	安定	あり・考えた	なし		
維持・改善	5	1	2	4		
悪化	2	0	1	1		
p 値	1		1			

表25が示すように、ほとんどの項目が成績の主観的評価と統計的に有意な関連を示していない。遠隔授業で「授業内容を理解できなかった」等の困ったことがあった、「通信環境」等の技術的障害があったとする留学生は少なくなく、成績への影響が懸念されたが、少なくとも主観的には成績低下との関連があるとは言えないようである。成績の主観的評価と統計的に有意な関連を示したのは「大学からのサポート期待」(表25 パネル C 第(3)列)と「大学からの緊急支援」(表25 パネル D 第(1)列)のみである。すなわち、大学に面談等のサポートを期待していた、もしくは大学からの金銭的な緊急支援を必要としていた・受けた留学生は、成績が悪化したと主観的に



評価しているようである。因果関係は不明だが、大学からのサポート・緊急支援を必要としていた・受けた留学生は、それらを必要としなかった留学生に比べて学修環境に恵まれていなかったのかもしれない。そして、そのような学修環境が当該留学生に及ぼした影響の結果として、成績の主観的評価の低下が生じたのかもしれない。

大学からのサポート・支援やそれらの周知のあり方等が成績の主観的評価にどのような効果をもたらすのかは、残念ながら今回の調査からはわからない。また、大学からの各種サポート・支援が学生の学修業績に与える効果の分析は本稿の範囲を超える。もっとも、愛媛大学においても、大学からのサポート・支援はコロナ禍対応以外のものも複数、提供されている。大学からのサポート・支援が学生に与える効果の分析は、今後の重要な課題である。

次に、性別と遠隔授業で困ったこと・技術的障害の経験との間に関連があるかどうかを検討した。表26が示すように、男性、女性のいずれも多くが遠隔授業で困ったこと・技術的障害を経験しており、統計的に有意な違いは両性間に認められない。

表26 性別と遠隔授業で困ったこと・技術的障害との関連

パネル A 性別	(1) 遠隔授業で困ったこと		(2) 遠隔授業受講に技術的障害	
	なし	あり	なし	あり
男性	0	5	2	3
女性	1	6	1	6
p 値	1		0.3595	

では、安定的な気持ちで遠隔授業を受講できたかどうかは、性別等と関連を有しているだろうか。表27が示すように、ここでもほとんどの項目が安定的な気持ちで遠隔授業を受講できたかどうかと統計的に有意な関連を示していない。統計的に有意な関連を示したのは再び「大学からのサポート期待」（表27 パネル C 第(2)列）であった。遠隔授業を受けていた際に不安等を感じた学生は、不安を感じなかった学生に比べて、大学からのサポートをより強く期待する傾向にあったものと推測される。この分析結果は、対面授業中に比べてコミュニケーションがより難しくなる遠隔授業中においてこそ、学生がサポートの期待・要請を大学側により容易かつ気軽に伝えることを可能にする制度的工夫の必要性を示唆していると言えるかもしれない。（なお、「大学からの緊急支援」（表27 パネル C 第(3)列）は今回、統計的に有意な関連を示していない。大学からの緊急支援は金銭的なものであったため、遠隔授業を受けていた際の不安とは強い関連がないのかもしれない。）

表27 安定的な気持ちでの遠隔授業受講と性別等との関連

	(1)		(2)		(3)		
パネル A 安定的な気持ちでの 遠隔授業受講	性別		居住形態		同期型（Zoom 等）授業数		
	男性	女性	一人暮らし以外	一人暮らし	1以上	0	
	できなかった	1	3	1	3	1	
	できた	4	4	4	4	1	
p 値	0.4705		0.4705		1		
パネル B 安定的な気持ちでの 遠隔授業受講	非同期型（Moodle 等）授業数		非同期型（Email 等）授業数		遠隔授業で困ったこと		
	1以上	0	1以上	0	なし	あり	
	できなかった	3	1	3	0	4	
	できた	8	0	6	2	1	7
p 値	0.1972		0.1144		1		
パネル C 安定的な気持ちでの 遠隔授業受講	遠隔授業受講に技術的障害		大学からのサポート期待		大学の緊急支援		
	なし	あり	あり	なし	必要・受けた	不要・受けていない	
	できなかった	0	4	3	1	3	1
	できた	3	5	1	7	2	6
p 値	0.2731		0.0244		0.1144		
パネル D 安定的な気持ちでの 遠隔授業受講	市等の支援		経済的影響		メンタルヘルス		
	必要・受けた	不要・受けていない	あり	なし	不安定	安定	
	できなかった	1	3	3	1	4	0
	できた	3	5	4	4	7	1
p 値	1		0.4705		1		
パネル E 安定的な気持ちでの 遠隔授業受講	医療機関等の受診						
	あり・考えた	なし					
	できなかった	2					2
	できた	4					4
	p 値	1					

## 6. 2. コロナ禍でのサポート面について

以上のクロス集計分析の結果は、2021年度の法文学部の留学生の場合、「大学からのサポート期待」の有無が、成績の主観的評価や遠隔授業受講時の気持ちと統計的に有意な関連を有していたことを示唆している。より具体的には、「大学からのサポート期待」をくみ上げてもらえなかった留学生が、成績の主観的評価の低下や遠隔授業受講時の気持ちの不安定化といった傾向をより強く示していたと考えられる。このことは逆に、「大学からのサポート期待」を留学生から適切・適確にくみ上げることができていれば、留学生の成績の主観的評価の低下や遠隔授業受講時の気持ちの不安定化を緩和させることができた可能性を示唆するものとも考えられるだろう。

それでは、「大学からのサポート期待」を有する留学生はどのような特徴を示して

いるのだろうか。「大学からのサポート期待」を留学生からくみ上げるための制度的工夫の具体的考察は今後の課題だが、この課題に取り組むためにも、今回の調査における「大学からのサポート期待」とその他の回答項目との関連を分析しておくことには意味があるだろう。（なお、「大学からのサポート期待」と「安定的な気持ちでの遠隔授業受講」との関連は前項で分析済みなのでここでは省略する。）

表28 大学からのサポート期待と性別等との関連

	(1)		(2)		(3)	
パネル A 大学からのサポート期待	性別		居住形態		同期型（Zoom 等）授業数	
	男性	女性	一人暮らし以外	一人暮らし	1以上	0
あり	0	4	1	3	3	1
なし	5	3	4	4	7	1
p 値	0.04818		0.4705		1	
パネル B 大学からのサポート期待	非同期型（Moodle 等）授業数		非同期型（Email 等）授業数		遠隔授業で困ったこと	
	1以上	0	1以上	0	なし	あり
あり	4	0	2	2	1	3
なし	7	1	5	3	0	8
p 値	1		1		0.1972	
パネル C 大学からのサポート期待	遠隔授業受講に技術的障害		大学の緊急支援		市等の支援	
	なし	あり	必要・受けた	不要・受けていない	必要・受けた	不要・受けていない
あり	1	3	3	1	1	3
なし	2	6	2	6	3	5
p 値	1		0.1144		1	
パネル D 大学からのサポート期待	経済的影響		メンタルヘルス		医療機関等の受診	
	あり	なし	不安定	安定	あり・考えた	なし
あり	3	1	4	0	2	2
なし	4	4	7	1	4	4
p 値	0.4705		1		1	

表28の結果からは、女性の留学生が「大学からのサポート期待」を有し表明する傾向が強いという示唆が得られる。性別以外の項目は、「大学からのサポート期待」と統計的に有意な関連を示していない。以上の結果は、もちろん、男性の留学生へのサポートが不要であることを意味するわけでも、性別以外の項目に留意する必要がないことを意味するわけでもない。もっとも、この結果は、より多くの留学生から授業や学生支援の改善に資する有益な意見をくみ上げるには、女性がより意見表明をしやすい制度設計を意識・工夫することが重要であることを示唆していると言えるかもしれない。

### 6.3. コロナ禍の生活面について

最後に、「メンタルヘルス」「医療機関等の受診」と性別等との関連をクロス集計により検討した。もっとも、表29、表30が示すように、何れの組み合わせにおいても統計的に有意な関連は見いだせなかった。「メンタルヘルス」の変化と「医療機関等の受診」の有無は、個別の要因と関連しているというよりはむしろ、コロナ禍による大学生生活の全体的な変化と関連していると言えるのかもしれない。

表29 メンタルヘルスと性別等との関連

	(1)		(2)		(3)	
パネル A メンタルヘルス	性別		居住形態		同期型（Zoom 等）授業数	
	男性	女性	一人暮らし以外	一人暮らし	1以上	0
不安定	4	7	4	7	9	2
安定	1	0	1	0	1	0
p 値	0.1991		0.1991		1	
パネル B メンタルヘルス	非同期型（Moodle 等）授業数		非同期型（Email 等）授業数		遠隔授業で困ったこと	
	1以上	0	1以上	0	なし	あり
不安定	10	1	7	4	1	10
安定	1	0	0	1	0	1
p 値	1		0.1991		1	
パネル C メンタルヘルス	遠隔授業受講に技術的障害		大学の緊急支援		市等の支援	
	なし	あり	必要・受けた	不要・受けていない	必要・受けた	不要・受けていない
不安定	2	9	5	6	4	7
安定	1	0	0	1	0	1
p 値	0.1629		1		1	
パネル D メンタルヘルス	経済的影響		医療機関等の受診			
	あり	なし	あり・考えた	なし		
不安定	7	4	6	5		
安定	0	1	0	1		
p 値	0.1991		1			

注：「安定的な気持ちでの遠隔授業受講」と「大学からのサポート期待」との関連は分析済みなのでここでは省略。

表30 医療機関等の受診と性別等との関連

	(1)		(2)		(3)	
パネル A 医療機関等の受診	性別		居住形態		同期型 (Zoom 等) 授業数	
	男性	女性	一人暮らし以外	一人暮らし	1以上	0
あり・考えた	3	3	3	3	4	2
なし	2	4	2	4	6	0
p 値	1		1		0.2263	
パネル B 医療機関等の受診	非同期型 (Moodle 等) 授業数		非同期型 (Email 等) 授業数		遠隔授業で困ったこと	
	1以上	0	1以上	0	なし	あり
あり・考えた	5	1	3	3	1	5
なし	6	0	4	2	0	6
p 値	1		1		1	
パネル C 医療機関等の受診	遠隔授業受講に技術的障害		大学の緊急支援		市等の支援	
	なし	あり	必要・受けた	不要・受けていない	必要・受けた	不要・受けていない
あり・考えた	2	4	4	2	3	3
なし	1	5	1	5	1	5
p 値	1		0.1626		0.3752	
パネル D 医療機関等の受診	経済的影響					
	あり	なし				
あり・考えた	4	2				
なし	3	3				
p 値	1					

注：「安定的な気持ちでの遠隔授業受講」「大学からのサポート期待」「メンタルヘルス」との関連は分析済みなのでここでは省略。

## 7. おわりに

増減を繰り返す我が国のコロナ禍の波も2022年7月には第7波に入り、2022年8月は1日あたり感染者数が20万人を超える日も珍しくなかった。しかし、本稿執筆現在（2022年10月31日）、日本の1日あたり感染者数は2万人台までに落ち着いている（参照、付録4・5）。1日あたり重症者数も100人台と、ピーク時（2021年9月）の2,000人台からは大幅な減少を見せている。世界全体を見ても、世界保健機関（World Health Organization, WHO）のテドロス事務局長（Director-General Dr Tedros）が2022年9月14日の記者会見で「まだ到達していないが、終わりが視野に入ってきた（We are not there yet, but the end is in sight）」（WHO, 2022）との見解を示すところまでコロナウイルス感染状況は改善してきている。

もっとも、今後、コロナウイルスをはじめとする感染症への対応の必要性がなくなることはないだろう。本稿を執筆している2022年度後学期においても、全てが対面授

業になったわけではない。感染者増加の新たな波が発生すれば、大学教育は再び遠隔手法による授業実施を増やすことになるだろう。ありうべき感染再拡大という事態への備えという意味も込めて、本プロジェクト・チームは、2022年度もアンケート調査、手記、座談会による意見聴取等を通じて、コロナ禍における愛媛大学法文学部生の学修状況や生活状況への影響を把握する作業を続けている。

本稿で行った2021年度法文学部留学生アンケート調査のクロス集計分析の結果からは、「大学からのサポート期待」をくみ上げてもらえなかった留学生が、成績の主観的評価の低下や遠隔授業受講時の気持ちの不安定化といった傾向をより強く示していることがわかった。この分析結果は、「大学からのサポート期待」を留学生から適切・適確にくみ上げるための制度的工夫の必要性を示唆するものと言えるだろう。本稿のクロス集計からはさらに、「大学からのサポート期待」を有し表明する傾向が強いのは女性の留学生であることもわかった。この結果は、より多くの留学生から授業や学生支援の改善に資する有益な意見をくみ上げるには、女性がより意見表明しやすい制度設計を意識・工夫することが重要であることを示唆していると言えるかもしれない（もちろん、男性の留学生へのサポートも忘れてはならないことは言うまでもないが）。

なお、本稿では、先行調査（青木他，2022）で得られた日本人学生の回答と留学生の回答との比較、及び、比較を通じて留学生の回答の特徴を析出する作業は実施できなかった。今後の課題としたい。

## 謝辞

本研究は、令和3年度法文学部戦略経費、令和3年度愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革 GP）及び JSPS 科研費19K21723の助成を受けたものである。また、今回のアンケート調査実施にあたっては、愛媛大学法文学部の教員・留学生の多大な協力を頂いた。さらに、留学生から寄せられた手記の翻訳にあたっては、愛媛大学法文学部の秋谷裕幸教授のご助力を賜った。深く感謝申し上げる。なお、本文中にあり得る誤りは全て筆者の責に帰すものである。

## 参考文献

- (1) 青木理奈, 鈴木静, 福井秀樹, 小佐井良太, 石坂晋哉. (2021a). コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅰ—学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果—. 愛媛大学法文学部論集. 社会科学編, 50, 37-68.
- (2) 青木理奈, 鈴木静, 福井秀樹, 小佐井良太, 石坂晋哉. (2021b). コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅱ—2020年度学生座談会報告書—. 愛媛大学法文学部論集. 社会科学編, 51, 117-138.
- (3) 青木理奈, 鈴木静, 福井秀樹, 小佐井良太, 石坂晋哉. (2021c). コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅲ—2020年度学生手記の分析—. 愛媛大学法文学部論集. 社会科学編, 51, 93-111.
- (4) 青木理奈, 鈴木静, 福井秀樹, 小佐井良太, 石坂晋哉, 太田響子, 池貞姫, 十河宏行, 中川未来. (2022a). コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅳ—2021年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果—. 愛媛大学法文学部論集. 社会科学編, 52, 19-54.
- (5) 青木理奈, 鈴木静, 福井秀樹, 小佐井良太, 石坂晋哉, 太田響子, 池貞姫, 十河宏行, 中川未来. (2022b). コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅴ—2021年度学生座談会報告書—. 愛媛大学法文学部論集. 社会科学編, 53, 133-150.
- (6) 青木理奈, 鈴木静, 福井秀樹, 小佐井良太, 石坂晋哉, 太田響子, 池貞姫, 十河宏行, 中川未来. (2022c). コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅵ—2021年度学生手記の分析—. 愛媛大学法文学部論集. 社会科学編, 53, 37-57.
- (7) 鈴木静, 青木理奈, 福井秀樹, 小佐井良太, 石坂晋哉, 太田響子, 池貞姫, 十河宏行, 中川未来. (2022). コロナ禍における授業提供体制の変化と学生意識—アメリカ・スタンフォード大学大学院生等座談会報告書—. 社会科学編, 53, 121-132.
- (8) Boschloo, R. D. (1970). Raised conditional level of significance for the 2x2-table when testing the equality of two probabilities; repr. from Statistica Neerlandica 24 (1970), p. 1-35. Stichting Mathematisch Centrum. Statistische Afdeling, (SP 109/70).
- (9) Fisher, R. A. (1922). On the Interpretation of  $\chi^2$  from Contingency Tables, and the Calculation of P. Journal of the Royal Statistical Society, 85 (1), 87-94.
- (10) Lydersen, S., Fagerland, M. W., & Laake, P. (2009). Recommended tests for association in  $2 \times 2$  tables. Statistics in medicine, 28 (7), 1159-1175.
- (11) World Health Organization (WHO). (2022). WHO Director-General's opening remarks at the media briefing— 14 September 2022. <https://www.who.int/director-general/speeches/detail/who-director-general-s-opening-remarks-at-the-media-briefing--14-september-2022> (Accessed on October 21, 2022)

## 付録

### 付録1 アンケート（日本語）

#### コロナ禍における法文学部留学生の学修・生活への影響アンケート

このアンケートは、令和3年度法文学部戦略経費および令和3年度愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革 GP）「コロナ禍における法文学部学生の被災記録の収集、保存」の一環として、留学生の学修・生活へのコロナ禍の影響をお聞きするものです。これは、学術目的の調査であり、後世に役立てるための記録として保存します。

本アンケート調査の対象は、愛媛大学法文学部の留学生です。本調査の回答により収集された情報は、個人情報保護法（個人情報の保護に関する法律）にしたがって適切に管理されます。本調査の結果を報告書・論文等で公表する場合、任意の自由記述欄に記入された回答以外の回答は統計的に処理されます。ご記入いただいた情報は、上記の利用目的のみに使用し、第三者に提供することはありません。

このアンケートは、原則匿名です。従って、お名前は書かないください。しかし、今後手記を提供してくださる場合は、お名前と連絡先をお聞かせいたします。

アンケート内容や個人情報の取り扱いに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

#### 【お問い合わせ先】

担当：福井 秀樹（fukui.hideki.hz@chime-u.ac.jp）

回答にはおよそ5～10分かかります。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

代表 福井秀樹・池 貞姫

\* 必須

#### 0. 個人情報の利用目的・取り扱いについて

本アンケートにご記載いただく個人情報について、利用目的と取り扱い方法を以下に記載いたしますので、ご確認いただきますようお願い申し上げます。

#### 【個人情報の利用目的】

アンケート結果から統計資料を作成し、愛媛大学における留学生のニーズ、愛媛大学による留学生支援の改善点を見つけるため。

ご回答いただいた内容を報告書・論文等に掲載するため。また、任意の自由記述欄に寄せられたご意見については、原文のまま掲載させていただく可能性がございます。

#### 【個人情報の取り扱い】

ご記入いただいた個人情報につきましては、管理責任者を定め、紛失や漏洩が発生しないように努めます。

ご記入いただいた個人情報は、上記の利用目的のみに使用し、第三者に提供することはありません。

アンケート内容や、個人情報の取り扱いに関するお問い合わせにつきましては、担当の福井秀樹（fukui.hideki.hz@chime-u.ac.jp）までご連絡ください。



上記に同意しますか\*

- ☐ 同意する
- ☐ 同意しない

【個人情報】

1. 国籍を教えてください（答えたくない場合は空欄のままでけっこうです）。
2. 日本滞在期間を教えてください（答えたくない場合は空欄のままでけっこうです）。

3. 性別を教えてください\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他

4. 学年を教えてください\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 学部1回生
- ☐ 学部2回生
- ☐ 学部3回生
- ☐ 学部4回生以上
- ☐ 大学院1回生
- ☐ 大学院2回生以上

5. コースを教えてください\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 昼間主：1回生のため、コース未定
- ☐ 夜間主：1回生のため、コース未定
- ☐ 昼間主：法学・政策学コース
- ☐ 夜間主：法学・政策学コース
- ☐ 昼間主：人文学コース
- ☐ 夜間主：人文学コース
- ☐ 昼間主：グローバル・スタディーズコース
- ☐ 大学院（法文学研究科総合政策専攻・人文社会科学研究科法学コース）
- ☐ 大学院（法文学研究科人文学専攻・人文社会科学研究科人文学コース）

6. 2021年度前期の居住形態を教えてください\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 1人暮らし
- ☐ 学生寮
- ☐ その他

- 6-1. その他の場合、詳細を教えてください。

【学修面】

この設問以降、2021年度前期（1Q/2Q）における法文学部（大学院を含む）と共通教育の遠隔授業についてお聞きます。

1. Zoom等の同期型授業は何科目ありましたか\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 1科目
- ☐ 2～5科目
- ☐ 6科目以上
- ☐ なし

2. Moodleを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 1科目
- ☐ 2～5科目
- ☐ 6科目以上
- ☐ なし

3. 修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 1科目
- ☐ 2～5科目
- ☐ 6科目以上
- ☐ なし

4. 昨年度（2020年度）と比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか\*

1つだけマークしてください。

- ☐ 昨年度（2020年度）と比べて成績は良かった
- ☐ 昨年度（2020年度）と比べて成績は変わらない
- ☐ 昨年度（2020年度）と比べて成績は下がった
- ☐ 1回生なので昨年度（2020年度）と比べられない
- ☐ 昨年度（2020年度）と比べて履修した科目が少なくなくて比較できない
- ☐ その他
- ☐ Other

4-1. その他の場合、詳細を教えてください。

5. 遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと
- ☐ 大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと
- ☐ 授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと
- ☐ 教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと

- ☐ 教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと
- ☐ 通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと
- ☐ 課題やレポートの書き方が分からなかったこと
- ☐ 課題やレポート提出の回数が多いこと
- ☐ 複数の科目の課題やレポート提出日が重なること
- ☐ 科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと
- ☐ 出席している授業で、課題やレポートが提出されているか確認ができなかったこと
- ☐ 困ったことはなかった
- ☐ その他

5-1. その他の場合、詳細を教えてください。

6. 遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の下でも受講できたこと
- ☐ 自分の好きな時間に受講できたこと
- ☐ 動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと
- ☐ 教員に質問できたこと
- ☐ 通学時間がなかったこと
- ☐ 1人で勉強する方が落ち着くこと
- ☐ 良かったことはなかった
- ☐ その他

6-1. その他の場合、詳細を教えてください。

7. 遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった
- ☐ 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった
- ☐ 自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）
- ☐ 自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった
- ☐ Moodle などの操作方法がわからなかった
- ☐ 言葉の障壁があった
- ☐ 障害になることはなかった
- ☐ その他

7-1. その他の場合、詳細を教えてください。

8. 遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた
- ☐ 困ったことを教員に相談できず、不安になった
- ☐ 困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった
- ☐ 昨年度以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった

☐ その他

8-1. その他の場合、詳細を教えてください。

【サポート面】

コロナ禍での大学や大学以外からのサポート面についてお聞きます。

1. 遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか。自由にお書きください。

2. これまで大学独自の緊急支援を受けたことがありますか \*

1つだけマークしてください。

- ☐ 支援を受け、満足している
- ☐ 支援を受けたが、不満だった
- ☐ 支援を受けたくて応募したが、不採択だった
- ☐ 支援を受けなかったが、知らなかった
- ☐ 支援は受けていない、あるいは、必要なかった
- ☐ その他

2-1. 大学独自の緊急支援を受けたが、不満だった方へお聞きます

不満だった理由を教えてください

2-2. その他の場合、詳細を教えてください。

3. 松山市や大学生協等から学生への食糧支援、生理用品の提供などを受けたことがありますか \*

1つだけマークしてください。

- ☐ 支援を受け、満足している
- ☐ 支援を受けたが、不満だった
- ☐ 支援を受けなかったが、知らなかった
- ☐ 支援は受けていない、あるいは、必要なかった
- ☐ その他

3-1. 食糧支援、生理用品支援を受けたが、不満だった方へお聞きます

不満だった理由を教えてください \*

3-2. その他の場合、詳細を教えてください。

【生活面】

コロナ禍での生活面についてお聞きます

1. 前期 (1Q/2Q) の遠隔授業期間において、どのような経済的な影響がありましたか (複数回答可) \*

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった
- ☐ アルバイトに入る回数や時間が減った

- ☐ アルバイトに入る回数や時間が増えた
- ☐ アルバイト先が休業したり雇止めにあった
- ☐ 新たにアルバイトを始めた
- ☐ 保護者からの仕送りに変化はなかった
- ☐ 保護者からの仕送り額が減った
- ☐ 保護者からの仕送り額が増えた
- ☐ 保護者からの仕送りがなくなった
- ☐ その他

1－1. その他の場合、詳細を教えてください。

2. 就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可）\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 就職活動に変化はなかった
- ☐ 希望していた企業や自治体が募集を停止した
- ☐ 公務員試験や就職試験が延期になった
- ☐ 希望していた企業や自治体の応募を諦めた
- ☐ Web 面接など、オンライン化された
- ☐ 志望業界を見直した（変更した）
- ☐ 就職活動をやめた
- ☐ 4回生以上ではない、または就職活動はしていない
- ☐ その他

2－1. その他の場合、詳細を教えてください。

3. 遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 通常と変わらず、安定的に過ごした
- ☐ 物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった
- ☐ 気分が落ち込んだ
- ☐ 寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた
- ☐ 疲れた感じがした、または気力がなかった
- ☐ 食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた
- ☐ 新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった
- ☐ 生活のリズムが崩れた
- ☐ 家族に会えず寂しかった
- ☐ 友達に会えなかったり課外活動が行えなかったりで寂しかった
- ☐ その他

3－1. その他の場合、詳細を教えてください。

4. 長期化するコロナ禍で、メンタル不調により医療機関やカウンセリングに行きましたか

- ☐ 受診したことがある
- ☐ 受診したことがない

- ☐ 迷ったが受診しなかった
- ☐ その他

4-1. その他の場合、詳細を教えてください。

5. 今年度、遠隔授業が始まった4月、あなたの生活において、どのような影響がありましたか。自由にお書きください。(遠隔授業開始は4月22日)

6. その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。

7. 夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。

【協力して頂ける方のみ】謝礼：クオカード3,000円

本プロジェクトでは、学生の皆さんにコロナ禍での大学生生活の記録を手記としてまとめていただきたいと希望しています。手記の締め切りは2022年1月末日で、語数に制限はありません。手記をお寄せいただいた方には、謝礼（クオカード3,000円分）をお出しします。お引き受けくださる方は、福井と池（下記の宛先）までメールにてご連絡ください。連絡頂いた学生さんには、福井から依頼のメールを致します。

宛先：福井秀樹：fukui.hideki.hz@chime-u.ac.jp、池 貞姫：chi.jong\_hi.mk@chime-u.ac.jp

件名：「コロナ禍における法文学部学生の手記について」

本文：お名前をフルネームで書いてください。

こちらから連絡しても良いメールアドレスを正しく書いてください。

質問は以上です。ご回答ありがとうございます。

## 付録2 アンケート回答の二項分類

二項分類	アンケート質問文と回答選択肢・自由回答
居住形態	2021年度前期の居住形態を教えてください
一人暮らし	1人暮らし
一人暮らし以外	学生寮、その他
同期型（Zoom等）授業数 非同期型（Moodle等）授業数 非同期型（Email等）授業数	Zoom等の同期型授業は何科目ありましたか Moodleを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか 修学支援システムやメールのみを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか
0	なし
1以上	1科目、2～5科目、6科目以上
成績	昨年度（2020年度）と比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか【*】
維持・改善	昨年度（2020年度）と比べて成績は良かった 昨年度（2020年度）と比べて成績は変わらない
悪化	昨年度（2020年度）と比べて成績は下がった

コロナ禍における法文学部留学生の被災記録の収集と保存

遠隔授業で困ったこと	遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）
なし	困ったことはなかった
あり	大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと 大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと 授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと 教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと 教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと 通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと 課題やレポートの書き方が分からなかったこと 課題やレポート提出の回数が多いこと 複数の科目の課題やレポート提出日が重なること 科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと 出席している授業で、課題やレポートが提出されているか確認ができなかったこと その他
遠隔授業受講に技術的障害	遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）
なし	障害になることはなかった
あり	自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった 自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む） 自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった Moodle などの操作方法がわからなかった 言葉の障壁があった その他
安定的な気持ちで遠隔授業受講	遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）
できなかった	困ったことを教員に相談できず、不安になった 困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった 昨年度以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった その他
できた	通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた
大学からのサポート期待	遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか。自由にお書きください。
あり	支援奨学金 学部やゼミの先輩との面談、気軽に質問できる教員のネット上オフィスアワー 遠隔授業をしながら教員との直接的な対面相談等が不可能だったため学期中学習に対する不安感等を調査するアンケート等を通じて調査結果が良くない学生に対して選択的な学習相談が周期的に行われてほしいです。
なし	特にないです。特に不十分だと思ったことはなかった。
大学からの緊急支援	これまで大学独自の緊急支援を受けたことがありますか
必要・受けた	支援を受け、満足している 支援を受けたが、不満だった 支援を受けたくて応募したが、不採択だった 支援を受けたかったが、知らなかった その他
不要・受けていない	支援は受けていない、あるいは、必要なかった

市等の支援	松山市や大学生協等から学生への食糧支援、生理用品の提供などを受けたことがありますか
必要・受けた	支援を受け、満足している 支援を受けたが、不満だった 支援を受けたかったが、知らなかった その他
不要・受けていない	支援は受けていない、あるいは、必要なかった
経済的影響	前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な影響がありましたか（複数回答可）
あり	アルバイトに入る回数や時間が減った アルバイトに入る回数や時間が増えた アルバイト先が休業したり雇止めにあった 新たにアルバイトを始めた 保護者からの仕送り額が減った 保護者からの仕送り額が増えた 保護者からの仕送りがなくなった その他
なし	アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった 保護者からの仕送りに変化はなかった
メンタルヘルス	遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）
不安定	物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった 気分が落ち込んだ 寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた 疲れた感じがした、または気力がなかった 食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた 新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった 生活のリズムが崩れた 家族に会えず寂しかった 友達に会えなかったり課外活動が行えなかったりで寂しかった その他
安定	通常と変わらず、安定的に過ごした
医療機関等の受診	長期化するコロナ禍で、メンタル不調により医療機関やカウンセリングに行きましたか
あり・考えた	受診したことがある 迷ったが受診しなかった その他
なし	受診したことがない

【\*】「1年生なので昨年度（2020年度）と比べられない」「昨年度（2020年度）と比べて履修した科目が少なくて比較できない」「その他」は分析から除く。



## 付録3 手記

### コロナ禍での大学生活や日常生活

#### 苦労したこと

比較烦恼的事情大概有三点吧。首先是由于上网课的原因，跟ゼミの老师和同学相处的时间就比较少，所以感觉人际关系比较冷淡。虽然从进ゼミ到现在有一年多的时间了，但是连ゼミ里同学的名字可能都叫不出来。其次是因为コロナの原因，出行受到了很大的影响。回国啊旅行啊什么的更不用说了，就包括日常的跟朋友一起出去玩，吃个饭之类的都会有些担心。反过来，这样一来在家的时间就会变得很长。特别是一个人生活，很容易失控，生活不规律，日夜颠倒等等这种事情常有发生。最后，感觉通学的过程变得有些痛苦了。在今年这一波コロナ开始之前，有一段时间是对面上课的，因为在那之前上了有快一两年的网课了嘛，突然开始对面上课，有种“去学校上课好麻烦啊”这种感觉。看来是养成了比较懒散的习惯……

悩ませられたことは3つほどあります。1つ目は、オンライン授業のため、先生やクラスメイトと過ごす時間が少なくなったことから、人間関係が希薄に感じられました。ゼミに入って1年以上経つのに、ゼミのクラスメイトの名前すら出てこないかもしれない。2つ目は、コロナの影響で、外出に大きな影響が出ていることです。帰国や旅行などはなおさらです。日頃友人と一緒に出かけたりご飯を食べたりすることも含めいささか心配でした。逆に言うと、その結果、家にいる時間がとても長くなってしまったのです。特に一人暮らしでは、コントロールが効かず生活が不規則になったり、昼夜が逆転したり、そういうことが起こりがちです。結局、学校に通うことが少し苦痛になったという感じです。今年のコロナの波が始まる前、私は対面で授業を受けていた時期がありました。それまで1～2年近くオンラインの授業を受けていたので、いきなり対面で授業を受けるようになって、「学校に行くのが面倒くさいな」という感覚がありました。ちょっと怠け癖がついてしまったようです……。

#### よかったこと

比较好的事情的话，参加就职活动的时候，在网上举行的说明会和面试算一个吧。不用再往东京啊大阪啊那些地方跑，省掉了不少的时间和路费。还有就是上课也比较方便了，省去了通学的麻烦，不会因为天气的原因产生翘课的想法（虽然我很少翘课。。）。最后就是因为是网上上课嘛，所以老师发的那些资料啊什么的可以很好的保存下来。之前对面的时候，虽然每节课老师也会发材料，自己也会记笔记什么的，但是学期一结束就全部扔掉了。

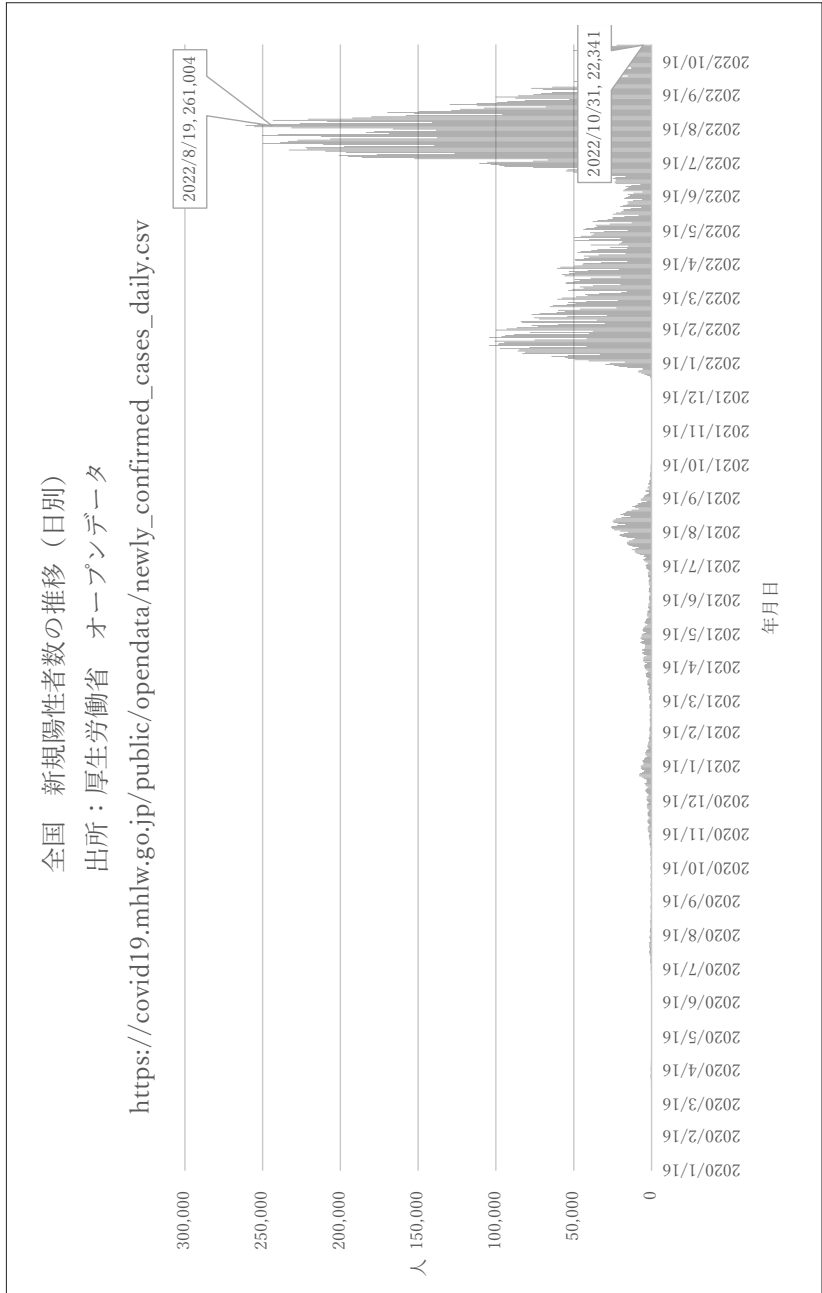
良かったことというと、就活のとき、オンラインで行われる説明会や面接に参加することが挙げられます。東京や大阪などに行く必要がないので、時間や旅費が大幅に節約できました。また、授業にも出やすいし、通学の手間も省けるし、天候のせいで授業をサボろうという気になることもない（めったにないけどね……）。最後に、オンライン授業なので、先生から送られてきた資料をすべて保存できることです。以前、対面だった時は、授業ごとに先生が資料を配ってくれて、ノートを取るなどしてはいたものの、学期が終わったら全部捨てていました。

## 感じたこと

感触最深的事情就是这两年过的没有实感吧。有时候写日程表的时候甚至会忘了今年是哪一年，看到日历上写的2021年，就会有，“啊，今年都2021年了嘛”这种感觉，对于时间的感觉还停留在2019年年底，コロナ刚开始的时候。

一番心に残るのは、この2年間の現実感のなさでしょうか。スケジュールを書いていると、今が何年なのか忘れてしまうことがあって、カレンダーに書かれた2021年を見ると、「あ、もう2021年なんだ」と感じて、時間感覚はコロナが始まったばかりの2019年の終わりのままなんです。

付録4 全国 新規陽性者数の推移（日別）



付録5 愛媛県 新規陽性者数の推移（日別）

